對米必勝論

米國通の

前ジャパン・タイムス社長
芝染太郎著

36

20錢

特252
565

始

資本金　參億四拾四萬九千五百圓
（拂込額貳億四千七百參拾六萬七千貳百七拾五圓）
諸積立金　貳億四千四百貳拾八萬六千圓
業務　物品販賣業、問屋業、運送業、海外ニ於ケル倉庫業、代理業、工事請負業、製材業、造船業、繫船並陸揚業、諸事業ニ對スル投資並融資、有價證券及不動產ノ取得保有、前各號ニ關聯スル事業

三井物產株式會社

本店　東京市日本橋區室町貳丁目壹番地

海外代理店
（南米貿易株式會社）ブエーノスアイレス
（佛蘭西物產株式會社）里昂、巴里
（獨逸三井物產株式會社）伯林
（南阿三井物產株式會社）ケイプタウン、ヨハネスブルグ
（新西蘭三井物產株式會社）ウエリントン、
（日伯貿易株式會社）リオデジャネイロ、サンポーロ
（智利東洋貿易有限會社）智利國、サンチヤゴ

支店及出張所所在地

大阪、名古屋、長崎、清津、太佐世保、若松、三池、臺北、厦門、高雄、京城、齊釜山、平壤、新京、安東、營口、牡丹江、錦州、天津、上海、哈爾、北安、佳木斯、大連、奉天、哈爾賓、濟南、廣東、原、石門、北京、張家口、青島、芝罘、開封、漢口、西貢、無錫、鎭江、蕪湖、南京、徐州、馬尼剌、ダバオ、蘭貢、汕頭、香港、海南島、河內、バレンバン、盤谷、孟買、昭南、ペナン、メダン、スマラン、マカツサル、シーラバヤ、ジヤカルタ、バクダツト、亞歷山、倫敦、紐育、桑港、甲谷他、ヤトル、斯土寧、メルボルン、

特252
565

ジャパン・タイムス
前社長　芝染太郎著

對米必勝論

戰爭文化研究所版

著者は太平洋横斷二十回、在米四十年と云ふ親米國の事情通で愛媛縣の出身、東京青山學院を出て、世界的放浪生活に入り布哇ホノルルに定住して英字新聞ガーデン・アイランド、邦字新聞自由新聞、布哇新報等四種の新聞社を創立經營し後ち渡米し足跡全米に及んだ。大正七年歸朝し森村商事會社東京支店長勤務中、東京商業會議所名譽書記長として山科副會頭と共に世界各地の商業會議所を歷訪し大正八年歸朝後、ジャパン・タイムス社の經營を繼承し、同社の經營擴張に盡瘁すること十四ケ年にして隱退し、爾後公私の使命を帶びて屢々渡米された。亦日伊親善の功により伊國皇帝よりコンマンドルの授勳あり。著書數種もある。

對米必勝論

昭和十八年四月

芝染太郎

第一　國體

戰勝の第一基礎的要素は何んと言つても國體の如何にある。この點は論議の餘地なきほど明瞭であると思ふ。一天萬乘の皇室を奉戴し忠君愛國の熱情と一心同體に結ばれて絶對的團結力を有する國家は、個人の福利を單一の目的として民主政體を擁護し各自の利害關係に於て合衆政治に聯合する國家に比較すれば、その國民的團結力に於ても戰鬪意識と戰勝に對する決意の上に於ても雲泥の差あることは今更言ふを待たぬところである。況んや同質純血の民族と混血異種の人種の差に於てをやである。日本人種は純血なる同種同質の國民であつて危急存亡に際しては一丸となつて外敵に對し

亦戰友の爲に仇を討つ義憤心の強さは世界に冠絶するものがあつて實に億體一靈一心の趣がある。世界の何處に斯る國民が見出さるゝであらうか。

反之、元來民主政體と個人主義とは切り離すべからざるものであつて、個人本位の衆團と民主政體下の國民は共に戰時に於て最もその弱點を曝露する運命に制せらるゝものであることは言を俟たぬ。況んや所謂寄合所帶の米國の如きに於てをや、この點は評說することを必要とせぬほど明瞭である。

第二　軍　隊

軍隊の規律と訓練、經驗と鬪志に於ても、個人本位の民主國に於て忠烈火の玉となつて國家に殉ずるが如き將兵を養成することは絕對不可能である。平時に於て米國には徵兵制度は行はれて居らぬのであるが、その義勇兵なるものも獨立生活を營むよりも軍隊生活の方が安易であるとする巷間無賴の徒が多數である、亦戰時に際して米國が募集する兵士の如きも種々なる香餌を以て募集するものであつて愈々徵兵令を發布する場合には避忌者の續出を免れぬ、從つて米兵の至る處彼等の悖德亂行は勿論のこと常に內部組織の脆弱と弛緩不規律を曝露し、且彼等には實戰の經驗なきため一度强敵に對すれば脆く敗散瓦解するのである。又た過去ルーズヴェルトが米國政府は決して海外に派兵せぬと屢々公言したのも國外に派遣すると言へば應募者が無くなる恐れも有り父兄妻子が反對するが爲めであつた。陸兵の日常の食事は事實帝國ホテルの獻立に優り水兵の募集には無錢で世界觀光が出來ると云ふが如き誘拐的な廣告さへ用ひらるゝのである。從つて斯かる素質の兵士が嚴格なる訓練や生死の巷に立つが如き危險を甘受しやう筈も無いのであつて、彼等はスポーツに於けるが如く一應は奮鬪もして見るが最早勝てる見込なしと考へるか若くは身自ら危險に際會すれば直ぐ諸手を揚げて俘虜となることを恥辱とも考へぬのである。それは彼等の劣等なる素質と個人本位の然らしむるところとして怪しむに足らぬ。規律と訓練と戰鬪意識と勇氣及頑强さに於て彼等は到底皇軍の傍にも寄れぬのである。

第三　銃後人心の動向

然らば國內に於ける銃後人心の動向はどうであるかならば、現在の戰爭に至る迄米

國の民衆は内心日本を侮り切つて居たのであつた、地圖の上で見て日本を豆粒の如き一小國と見縊り資源に乏しき東洋の一貧弱國と輕蔑し我商工業或は文化の機構に至るまで僅に米國の糟粕を嘗むるに過ぎざるものと内心輕侮して居たが爲に、世界の最富最強國たるを以て自負した米國が日本に打ち負かさるゝ筈が無いとも自信して居たのである。それ故に緒戰に於ける敗恤に對し彼等は嘗て我々日本人を蔑視して居たゞけそれだけ逆に優越觀を傷けられて是非ともその自尊心を恢復せねばならぬと臍を固めたことであらう。その爲には内輪揉めを避けて兎に角大統領を支持し、("Never swap horses while crossing the stream." と云ふ諺は彼等の強き國民思想である)、目的完遂に邁進せねばならぬと考へ、且一時的興奮と激勵に刺戟されて今日に至つて居る。然るにルーズヴェルトと彼の幕僚は既にニュー・ヂールの復興策に失敗し再び緒戰に於ける大敗北を國民に知らせては政權の保持も愈々困難となるは勿論國民の戰鬪意識を挫折する恐ありと豫察して眞珠灣の艦隊全滅を始め南太平洋の敗戰をひた隠しに隠して來たことが今は泣面に蜂の結果となつて「ルーズヴェルトは己が失敗を掩ひ自己と自黨の擁護にのみ沒頭するのみか建國以來の憲法を無視蹂躙して獨裁權を掌中に收めんとするもので、その爲に戰果を隠蔽し或は事實を轉倒揑造して國民の信頼を裏切れるもの」と攻擊されて、彼は漸く拔き差しならぬ破目に陷り日々に人望を失墜し寧ろ國民の怨府たらんとしつゝある。同時にワシントン政府の官僚化、經濟的壓迫及び國民が身邊に痛感し始めた日常生活上の不自由に依て排ルーズヴェルトがテンポを早めつゝあることは米國の裏面を知らざる人々にも略々想像さるゝところである。この狀勢は米國側から考ふる時實に重大なる危機を孕むものと言はねばならぬ。若しもこの狀勢が尙一層惡化するならば米國の戰爭指導力の動搖は恐らくこれを阻止し難くなるであらう、(私は玆に「若し」とか「恐らく」と云ふ言葉を用ひたが米國の裏面に立入つて見たならば政府非難の聲は既に國内に充溢して居るものと信ずるのである。)

第四　國富と生産力

國富と生産力に於て日米兩國の懸隔は全然算盤の桁が違ふと考ふる人が多數である。外觀全くその通りである。しかし一昨年末の眞珠灣敗戰後に於て米國は毎月平均二十億米弗を戰費として計上したがその戰費は二十億米弗から四十億、六十億と激增

したので月額八十億米弗と見積つて明年六月末迄の一年間の戰費豫算を壹千餘億米弗に計上することゝなつた。戰前の爲替相場で換算すると勿驚約四千億圓以上となる、この數字だけを見ても氣弱な人はビックリ仰天するであらう、しかし、米國の强味が單に莫大な數字であるとすれば我々は何等ビク付く必要は無い。數が物を言はぬ適例はルーズヴエルトが一九三〇年來の大不況を克復すると聲明して支出した金額は優に一千億米弗を超過して居る、にも關らず米國の不況はルーズヴエルトの復興策に依て遂に克復さるゝに至らなかつた。その國內的政策の失敗を有耶無耶に葬らんが爲に彼は國民の視聽を國外に向はしめて新たな大賭博に手を染めたのが歐洲大戰への介入でもあり世界制覇を狙ふ Pax Americana の夢でもある。尙一層手近な適例を求めて數のみが物を言はぬ實例を擧げるならば、眞珠灣頭敵は十數隻の大戰鬪艦と多數の巡洋、驅逐艦、水雷艇と堅固な砲臺や無數の飛行機を以て所謂太平洋上に不落のジブラルタルを築ひて居たのであつたが、それが僅かばかりの我飛行機に依て短時間に全滅されたのみならず開戰後至る處で數字の豫測は悉く裏切られて居るでは無いか。數の必ずしも賴むに足らぬ歷然たる證據であるが、昨日有つたことは又明日ある筈で歷史は繰

り返さるゝであらう。若しも愼重論の假面を被つて尙も彼此と敵國に都合のよき理窟を揑る人が有るとすればそれは遂に救ふ可からざる弱蟲で、賣られた喧嘩さへ買ひ得ず奴隷にされても尙辱を知らぬ人達であらうとも云へる。

尙、又た、國富と國力の計算は生產力や埋藏物の數量のみで計らるゝものでも無い。生產と消費とを睨み合せ、埋藏さるゝ富源に對しては勞力や運輸力で割り出して見ねば總てそれは紙面の上の國富である。生產に就て言へば米國政府の濫費や國民の贅澤(所謂高級文化生活)や物價及び勞銀の高率であることをも計算に入れて考ふべきである。素朴簡素な日本人の生活と高度の奢侈文化性を特徵とする米人の生活とその幾れがより永く戰時の窮乏に耐へ得るかと云ふことが充分に考へられねばならぬ如く石炭石油の豐富な資源を有する米國が今日何が爲にガソリンの缺乏に惱みつゝあるかと云ふことも考ふべきである。譬へば米國にはパルプの生產額が如何に豐富で有らうとも、消費の側に於て東京の大新聞が平時六頁から八頁であつたに比し紐育の新聞は日刊三十頁から四十頁で日曜號は百頁を突破して居た。ところで日本で減頁が必要となつた頃には米國も矢張り原紙の大節約をせねばならなくなつたのである。鐵類であ

らうと石油なり護謨なり若くは食料品であらうと皆同じである。尙又通貨の購買力乃ち物價勞銀の高低をも考慮して後我々は始めてアメリカの尨大な數字を正解し得るのであつて、日米國富の比較はこんな按配に計算して始めて正確に比較することが出來るのである。

第五　機械力

米國製の機械に對して矢鱈に感心する人が有る。その生產量の多數であることは既に前章呼び聲は必ずしも怖るゝに足らぬことを述べたが、私は第一世界戰爭の終末期に米國を視察して當時フォード會社などで建造した巨船を見てその粗製濫造振りに一驚した、果してそれらの船舶は後日用途に適せずして腐朽するが儘に放棄された。現在米國は飛行機の增產に躍氣となつて居る、しかし、ソロモン方面に於ける彼等の實戰振りを聞くと、一度日本の飛行機と交戰した米國の飛行隊は又と立ち向つて來る者は殆ど稀であつて、彼等は命あつての物種子と賢明にも交戰を肯ぜず冒險的に打ち向つて來るものは嘗て日本機と戰つた經驗なき者ばかりで有るとのことである。幾ら飛行機の數が多くても個人本位安全第一の護身符を提げたのでは火の玉の我荒鷲の爲には物の數でもあるまい。

機械そのものゝ精度に就て彼我相當の懸隔が有るとも言はれ無いとも言はれるが、先づ百歩を讓つて日本機の方が劣つて居ると假定しても偖實戰の結果に就て見ると海陸空共に日本の大勝利である、日本側は一巡洋艦を以て敵米國の戰鬪艦をさへ擊ち沈め我飛行機は單獨で敵の十數機を悠々と擊墜して居る、そこに又計算上の錯誤が有るのではあるまいか。機械と機械との比較と機械の能率に就ての比較とは全然別物である。單に機械を展覽室に並べて比較する場合にはギアとかクランクとか總て機械の各部々々に就て精度の如何が比較さるゝのである、しかし實戰に於ける能率上の比較となると機械プラス操縱の巧拙が物を言ふことゝなり、而して操縱術の巧拙は手の尖のみでなくして精神力が加算さるべきであつて、實戰に於ける比較は機械の精度十操縱の技能十戰鬪的精神力が物を言ふのである。その大切な技術上の巧拙及び精神力の如何を算入せずしてヤレ米國製機械は良いとか米國人は素人でも機械的知識に於て秀でゝ居ると云ふやうな方程式評價は飛んでもない錯覺を計算上に生ぜしむるのである。

この點が眞珠灣攻擊以來最も明瞭に立證されたところである。

第六　勇氣と執捻力

今更日米兩國民の勇猛心を比較するならば日本國民を侮辱するものであるとする人も有らう、然り私もさうは考へるが然らば米國人に勇氣が無いかと云へば決して〳〵そうでは無い、彼等には彼等相應の勇氣が有つて、場合に依り彼等の勇氣は頗る頑强堅忍を示すのである。しかし、普遍的に言へば彼等の勇氣は餘程なモーラル・コンヴィクション（精神的信念）の上に湧出する性質のものであつて、それは何處までも個人の自發的理由に原因するものであるが故に指導命令的の場合に於ては單に服從の程度を越へぬのである。その爲にルーズヴェルトは旺んに架空的道義論を並べ立てゝ、或は民主々義の擁護を叫び或は生存權の防護などを唱へて米人の精神的信念を喚起しやうと贋看板を掲げ、前駐日大使グルーの如きも、日本の强力とその勢力が如何に將來米國及び米人の生活狀態を脅かすかを力說して敵愾心を喚起せんと試むる所以である。然るに玆に言ふ米國人の精神的確信は何處までも個人本位に立脚するものであつて彼等個人〳〵の判斷に依て左右さるゝものであるが故に對米戰爭に於て思想戰の重要なることを私は極力主張せんとするのである。

偖、然らば現在に於てこの點はどんな狀勢にあるかならば、野村來栖兩大使の懸命の努力に關する眞相は少數有識米人の間に知られて居るのみで、ルーズヴェルト政府はそのホワイト・ペーパア（政府の報告書）に於て實に有らゆる勝手な揑造のみを並べ立てたるに係らず所謂「少數者を或る期間騙すことは可能でも大衆を何時までも騙し通すことは不可能である」とリンカン大統領が嘗て喝破したるが如く、ルーズヴェルトの發表や誓約や乃至豫言聲明は日一日と疑惑を以て迎へられ最近彼の聲明の如きは反感をさへ惹起する傾向が生じつゝある。表面には今尙ルーズヴェルトが民衆に支持されて居るかの如く見ゆるとしても、米國民衆の彼に對する信賴は非常に薄らぎつゝあるが故に（新聞紙上には發表されぬとしても）來るべき大統領選擧の期日が迫るに從ひ且亦戰果が米國に不利となるに連れてルーズヴェルト非難の聲は次第に高まるであらう。最近米國の議會に擔ぎ出された大統領の二期以上の在職に反對する法案の如きはその間の消息を雄辯に物語つて居る。

ルーズヴェルト反對の聲が高まるに從ひ米國の如き民主國の輿論は自然錯亂を免れぬであらう。然のみならず今後戰況が米國側に不利であればある程、亦日米開戰を誘發したる原因が徐々に大衆の了解するところとなるに伴ひ、尙且開戰の動機が自國に於けるユダヤ系思想の傀儡たる少數の富豪と政治家の示唆に原因するものであつて米國は日本の爲にその獨立を脅されたが爲めに立つたものでないと云ふ事實が看破さるゝに至らば、米國民は戰爭の目標を見失ひ何がために困苦と鬪ひ或は生命を賭せねばならぬかと自問自答するであらう。父母はその愛兒を、妻はその夫を、何が爲に戰鬪の巷に送り少數富豪や政治家の自己滿足の爲に喪はねばならぬかを顧る時、米國々民の戰鬪意識は大半喪失されるであらう。況んや第一次世界大戰に參加したる米國民はその參戰が何等彼等を利益せずして單にユダヤ系米人の地歩を强化したるに過ぎざりしことに氣付く曉に於てをやである。思想戰の重要性は玆にも推知さるべきである。

日米兩國民の執拋性に就て言ふならば、この際我々は喰ふか喰はるゝかの決戰を覺悟して無理に押賣された喧嘩を買はねばならなくされたのである。我々は戰ふか若くば未來永劫米國の頤使に從ふて終生奴隷扱ひを甘受するかの二途その一を選ばねばならぬ窮地を排して勇猛に立ち上つた。反之、米國人は何が爲に日本と戰ふのかその眞相さへ捕捉せぬ者が多數であつて戰爭目的が全く晦冥である。空理空論を看板として態々他國の戰爭を買つて出た贅澤極まる戰爭である。今や彼等米人は飛んで火に入る夏の蟲同樣に好んで身を焦しつゝあるに過ぎぬ。理非曲直天を待たずして明なる我自存自衞の聖戰の强味は實にこの點に在るのであつて從て執拗力に於ても我は遙に彼を凌ぐものがあるのは當然である。

第七　陸海空の戰鬪力

陸に、海に、空に、日米相互の戰鬪力は開戰以來の趨勢が物語つて居る。米國の陸軍は日本の陸軍から言へば物の數でもない。彼が太平洋の制壓權であると自負して居た太平洋艦隊は大半既に海底の藻屑化した。次から次へと新造するにしても、金さへ有れば萬事如意と云ふ譯に行くもので無い。それ相當の困難や障碍や缺陷の生ずるものであることは現在既に米國が直面して居る物資及び人的資源の缺乏だけでも明かである。況やルーズヴェルト大統領ほど不渡手形を濫發する名人も少い。そこでこちら

は一億一心一體となつて負ければ裸一貫どころでない、全く米國の屬領となつて奴隷視されて仕舞ふのであると考へ、ウント覺悟を極めて有らゆ犧牲に甘んずるならば米國大なりと雖も何等寒心すべき必要は無いのである。

飛行機の數量に於ては敵米國はそれに囑望して全力を掛けて數でこなさんと計畫して居る我一機が敵の十數機を撃墜しても間に合はぬ程度に彼の生産力が尨大であるとしてもそれにビク付くなどは餘りにも神經の筋の小さな話である。現に我飛行勇士の神技に恐怖して居る敵がそう〳〵無謀に死地に向つて盲進しても來まいし、飛行機の數が增加すればする程飛行隊員の數を增加せねばならぬが、數を增やせば質が低下して實戰に無經驗な輩の數が增加するだけのことゝなる。それは火の玉でなくして風船玉に比すべきであつて、風船玉の空爆が單に眞似事に終ることは昨年四月來襲した敵飛行機の手並でも略想像され得るではないか。況んや飛行爆撃だけで敵を參らし得るものでない證據は、現在の歐洲大戰の初期に於て獨乙の空軍が英國に猛爆を加へた頃には今しも英國は參つて濟ふかに想像されたが、ロンドンを始め空爆された他の都市も一つも參つて濟つたものは無く、今は既に復興して居る。我々は敵國人ながら英人の執拗さと辛抱强く自信タップリで神經の線の太さには學ぶべきところがありたいと思うのである。

昨年四月東京その他に來襲した十數機の敵機は差したる損害も與へず、一機も火の玉の決意を示さず、唯處嫌はず盲滅法に學校や病院へ燒夷彈を投棄してホウ〳〵の體で命から〳〵逃げ出したのであつた。アンナものが千百機來襲したればとて何であらう、然かもその時は突然不意の御入來であつたが次に來る奴等に對してはチャンとお迎ひが構へて居る、然かもそれは皆火の玉で敵の風船玉を全滅するだけの覺悟あるものである。先づ空中戰のことは我勇猛なる將士に一任して、我々民衆は如何なることが有らうとも、如何なる場合にも、平靜執拗少しも動せぬ覺悟をすればよいと思ふ。否實際少々は敵機が來襲して呉れぬと我々の戰爭氣分が緊張せぬ位にさへ考へらるゝのである。一年半も戰爭狀態に在りながら我々は全く呑氣すぎて眞劍味が出ぬに困つて居る、開戰の當初から五十回や百回位な空襲を覺悟した我々は全く啞迷狸化の呑氣な戰鬪振りに口あんぐりの體と言つてもよい。戰爭と云へば外地だけで戰はれて未だ敵軍の內地攻撃を體驗したことの無き我々は偶まに歐羅巴や支那の戰場に思を馳せて

我天祐を感謝すると共に、如何なる場合にも不覺を見せぬやうに肚を極めて置く必要があらう。實際家屋や工場は破壞されて滅茶〳〵にならうとも民衆に精神的動搖も無く勞務者は平氣の平左で操業に從來し交通運輸上の系統も一糸亂れぬまでに國民が訓練され、空襲に對する自信力が百パーセントに發揮さるゝならば、百の空襲左まで懼るゝに足らぬことゝならう。

いつ敵が空襲しやうと、如何に空襲が實行されやうとそれは專門家の問題であつて我々民衆は一切動せず、慌せず冷靜に對處して秩序整然自信タップリ辛抱强く執捻であれば敵側の目的は外れて仕舞ふのである。兎角する間に一年や二年は經過するで有らうが、その一二年こそ米本國に於ける最も重大な時期で意想外な危機が米國を見舞ふことを私は豫想する。現戰爭が長期化すればする程米國の方が弱化することを私は確信するのであつて、それは軍事上にも政治的にも亦人心弛廢の上にも米國こそ先づ參るべきである、結局現戰爭は銃後國民の耐久力の比べ合ひで勝敗が決せらるゝであらう。

第八　戰鬪力の分散

世界大戰介入前に所謂民主諸國の兵器廠を以て自任したる米國は己れ自から危險を冒さずして利益を壟斷せんとし、或は戰費貸與の美名の下に弗外交を弄びて世界制覇を策したが、時局の推移と共に次第に深入りして先づアイスランドに進出して軍需品輸送の確保を試み、その後理非曲直を無視して中立國の領土に派兵し、又た日本を壓迫せんと試みて日米開戰を不可避たらしめしが爲に、太平洋方面に海空力を增派せざるを得なくなつた。亦戰局の發展に伴ひ北アフリカにまで派兵し、西南亞細亞にその魔手を延すに及んで米國の戰鬪力は東西南北五十幾個所に分散することゝなつたが、その分散は一見世界制覇の第一歩の如き觀あるもそれは皮相的なアメリカ式の遣り口であつて、實は國力と戰鬪力にマイナス符を附ける結果を生じ、最早何れの地角にも攻勢集中の擧に出でられなくなつて、戰鬪力分散の儘戰爭を繼續するの外拔き差し出來ぬ羽目となりつゝあることは我々門外漢の素人にもそれが結局米國の弱點とならうことが考へらるゝのである。ルーズヴエルト大統領は政黨政治の達人で虛勢を張つて

敵黨を威嚇することに神技的妙を究めた男であるが、黨略と戰略とは同じ手では打てぬものとみへて、彼の恫喝手段は逆に今自體を弱化する惡結果となりつゝあると判斷すべきである。

第九　米國の裏面

米國が世界の一大富强國であるから米國は現戰爭に悠々然と双葉山が土俵に立つ時の樣に構へて居るかと言ふと決してそうでは無い。本期議會へ提出されたルーズヴェルトの豫算案に依ると、本年度の歳出として壹千九十億米弗が要求されて居る。それは國父華盛頓が米國第一次の大統領となつた以來百五十五年間の米國政府歳出總額に比すると僅に十億米弗の差が有るのみである。その巨額をルーズヴェルトは束の間に消費しやうと云ふので有るから如何に數字を誇る米國人としても一驚を喫せざるを得ぬのである。而してその巨額の内本年度の戰時費は壹千億米弗と云ふのであるが、それに對し本年度の米國總歳入豫算は幾らかと云ふに壹千參百五十億米弗であつて明年度の豫算は壹千四百五十億米弗であるから、米國總歳入の八割弱は米政府が戰費に充當せんとするのである。

しかし、斯る財政に無理の生ずることは當然であつて、重税が伴ふは無論である。從つて租税は五百億米弗に達し米國總歳入の三分ノ一以上に該當し、民衆の需用に對する生産額は既に四割減となり、亦米國の國債發行額は明年六月に至らば貳千億米弗に達するのであつて、インフレは到底免るべからざるものがあると同時に、米國市民一名の租税負擔は平均して八百十九米弗に激增するのである。その上に强制貯蓄や國債購入と共に他方物資上の制限割當配給の新制度に伴つて賣吝み買溜の闇取引は自由民主國だけに最も旺んに行はれつゝあるのみならず、啞迷羅禍特有のギャング（强盜團）は既に各洲に横行し大量密輸が大流行すると同時に、農業地方の諸州に於ては勞働力の缺乏を訴へ始めたので、平常高級文化生活を自負して居た米國民衆は有らゆる贅澤品は勿論家庭の必需品にまで不足を感じ低級缺乏生活に甘んぜざるを得ぬことゝなりつゝある。無論平常奢侈生活に慣れた者ほど生活上の壓迫を餘計に痛感するのであつて、米國民衆は遂にルーズヴェルトの政策を呪ひ始めたのであるから、次には戰爭の意義なきことを叫び出すに極つて居る。現に反對黨は米國内に物資缺乏し剩へ國

民の負擔が極度に激增しつゝある場合に他國に對し物資や軍費を供給することの矛盾を痛論し始めて居る。最近に於ける米國輿論の動向は之に依つても窺ひ知ることが出來る。昨一九四二年度に於ける一人當り稅負擔は米國が平均八百十九米弗であるに比較し日本では百十九圓、米貨に換算すれば僅に卅米弗に過ぎぬ少額で洵に有難い話である。偶私は日露戰爭に於て露國側の腰の摧けた動機に想到せざるを得ぬのである。それは民衆の施政者に對する不平不滿が或程度に達する瞬間に於て恰も濁流の堤防を壞決するが如く凡ゆるものを破壞する恐るべき大衆的爆發力となることである。我々は一億一心勝ち拔く迄と云ふ大決意を以て米國人心の瓦解を眺めようでは無いか。

最近米國の五大農業團體は勞働力の缺乏を訴へて壯丁の除隊と農具の增供及び農作物の値上げを政府に要求した。亦政府が有らゆる宣傳をして國債の買入れを奬勵しつゝあるにも係らず國民は重稅に耐へ切れず又インフレを怖れて國債は買入れる一方から內々それを賣却し始めて居る。その傾向は政府當局が隱蔽して居た緖戰の敗北が民間に知れ渉つて以來特に顯著となりつゝある。假令ば昨年一月に於ける賣却高は一千四百萬米弗であつたものが同年十月には四千萬米弗となつて約四倍の激增振りであつて、この數字は確かに人心の傾向を示して居るものと思ふ。

一方物資の缺乏は次第に甚だしく、大統領の家庭に於てさへバターやコーヒーの節約を餘儀なくせしめて居る有樣である。それは日本の家庭で言へば茶や味噌の缺乏に比すべきものである。

ガソリンの缺乏に依つて本年一月に自動車の鑑札を取り上げられた車臺數は四十萬に及んで居るが、それは日本で言へば下駄を奪はれたと同然である。その他日常の必需品視されて來た種々なる文化的什器は總て民衆から剝奪され、他方米人の誇として來た言論の自由さへ彈壓されて政府の施政を批評した新聞雜誌の當事者や上下兩院議員の數名も檢擧拘束さるゝと云ふ不祥事が續出しつゝあると同時に、ルーズヴェルトの權能のみ帝王のそれ以上に强化擴大され、彼自身が從來口にしたる自由平等の理想は內面から彼自身の行動に依つて消滅して仕舞ふのである。ルーズヴェルトは二年前の演說に於て四ッの自由解放と云ふことを高唱した、卽ち言論と信敎の自由、貧窮と恐怖に對する解放と云ふのであつたが、それ等は悉くルーズヴェルトの不渡手形となつた。

斯る事態が建國以來自由平等を天賦の權利と心得て氣儘氣隨に振舞つて來た國民に何時まで忍恕されやうか。爆發點は將に近付きつゝあるのである。その爆發期まで辛抱し奮闘し苦行し得る我等に必勝の榮冠は天降るのであると私は確信して居るのである。

第十　假想數字

以上は何等の誇張も偏見もなく日米對比の實相を批判したものであつて、をこがましき言ひ分ではあるが、過去四十年間の米國生活に依つて米人にさへ「米人以上に米國を識る者」とされた私の觀察を有りの儘に披瀝したものであつて、私は謬てりとするもその大ならざることを確信するのである。その誇張も偏見も無いと信ずる私の判斷を若し假想的數字にして圖解すれば私は左の一表は大體に於て多く誤たざるものであることを自信する。無論數字に依つて計算し能はざるものを數字にこなして見るのであるから單に概念を示すに外ならないことは言ふを俟たぬが、しかし、日本の必勝と云ふことだけは算盤珠に彈け切れぬ程歴然たるものが有ると、私は確信するのである、とは言へ、油斷大敵勝つて兜の緒を締むべきは無論である。

以上の概論を試に圖解すれば大要左の結論を得ることゝなる。

日米勝敗の假想比較數字

	日	米
國體上の基礎觀念	[illegible]	[illegible]
軍隊の素質	[illegible]	[illegible]
銃後人心の動向	[illegible]	[illegible]
國富と生產力	[illegible]	[illegible]
機械能力		
精度	[illegible]	[illegible]
操縱技術	[illegible]	[illegible]
精神力	[illegible]	[illegible]
發明力	[illegible]	[illegible]
適應性（器用）	[illegible]	[illegible]

この表によれば日米戰爭は少くとも七四〇對六〇〇の假想的數字の對抗となる。

機械の精度などに關する比較は單に門外漢の妄斷に依るものなるは論を俟たぬ。亦元來數字に依て計算し得ざるものを試みに圖解して概念を得る一助としたるに過ぎぬのであるから以上の數字は單に筆者の一私見に過ぎぬ。恰も力士の體力と技術とを解剖して東西その何れに軍の揚るかを想像したる素人評の如きものに過ぎぬのであつて戰爭は回向院の競技の如くには闘はれぬのである。

天祐我に在り

以上述ぶるところを以てフールス・パラダイス（痴人の天國）であるとし、尙も敵國の恐るべきことを說く人も世間に有るであらう。私も現在日本が戰ひつゝある乾坤一擲の大戰爭が現狀の如く遠く外地に於てのみ戰はれ內地は未だ本物らしき空襲さへも經驗せずして終局を見るであらうなどゝは考へて居らぬ。生活狀態に於ても我現狀を歐洲諸國や支那大陸のそれに比較するならば我々は極樂に居て地獄を見下すが如き感を免れぬ程實は雲泥の差を認めざるを得ぬのである。如何に天祐とは言へこれ式のことで乾坤一擲の大戰爭が終局するなどゝ考ふることはそれは餘りにも虫のよい錯覺と考ふべきであつて、左樣な錯覺こそ『痴人の天國』と云ふべきであらう。この大戰爭に勝ち拔く爲には現狀に十倍も百倍もの苦難を通り越さねばならぬことは當然であり亦その辛酸味を體驗する日は必ず來るであらう。國民全體がその苦難を忍ばねばならぬ日こそ前線と銃後の差別なき一億全國民の大決意と大奮鬪が要求されそれが現實化する秋である。しかし我々日本人はその苦難辛酸に耐へ得ぬが如き國民ではない。假令ば東京が空爆されたとしても、我々としては既に體驗濟みである。大正十二年の大震災以上の災禍を蒙る譯でもない。大地震や大風水害に見舞れ通しで鍊はれた我々が、逃げ延びることを第一條件とする米兵の機械力位で參る筈は絕對に無い。唯私の恐るゝ一點は開戰以來の戰果が餘りにも我に調子よく進捗したが爲に、銃後の一部國民がこんな安易さで世界大戰が勝ち拔かれると想像しては居るまいかと云ふ杞憂だけである。普通に考へればこれ迄に五十回か百回位は空襲を受けても然るべきであつたにも關らず、單に子供騙しみたいな只一回の空襲で一年半も過ぎたと云ふことは實に稀な天祐であつたが、我々は決してその天祐に狎れてはならぬのである。來るものは必ず來る。しかしそれを恐れぬ者には來るも來ないと同じであらう。我々は今こそ緊褌一番米機米艦御座んなれと覺悟の臍を固むべきである。

元來が米英から無理に賣られた喧嘩、買はねば男が立たぬどころか、遂に奴隷扱ひをさるゝに極つた情勢下に我々は生きるか死ぬかの決心を以てこの聖戰に望み、擊ちてし止まむの氣概と大決意を以て干戈に訴へることを辭せなかつたのである。意氣天に冲すとは我決意の表現であらう。これに反し、反樞軸國間內部の軋轢と龜裂とは日

に顯著となりつゝ、危ふく崩壞の危機に瀕せんとするものゝあることは、その屢々開催さるゝ會談の裏面の消息に充分窺はれるのである。

敵陣營の切札

敵英米としては眞珠灣の全敗、香港、新嘉坡、比島の降服を初幕として、現在はビルマ奪回作戰も失敗し、南太平洋方面に於ける海陸空軍部隊の甚大な損害に加へて、北阿に於て或は獨ソ戰線に於ける戰況も悉く不利にして意の如くならず、ルーズヴェルトもチャーチルも國民の非難攻擊に對して退引ならぬ窮地に陷つて居るのである。かくて何等か大掛りな對日空襲でも試みなければ全く遁辭を見出し得ぬ情勢下に在る彼等は或は新手を打つて來るものとして覺悟を要することは今更言を俟たぬ。しかしその新手の戰略が再び彼等が思ふ壺にはまらぬ曉こそ、米英共に內部崩壞の兆す時期と見て差支へ無からう。恰も米國大統領の改選期は向ふ一年半に迫つて居る、その頃までが實は我々の最も頑張らねばならぬ大切な時期とも考へらるゝのである。日本々土の空襲にも失敗すれば、米國の民衆も冷靜を恢復し抑々何が爲めの戰爭であるかを自省し始むるであらう。元來米國がこの世界戰爭に參加した動機とも見るべき原因を探究すれば

第一、世界制覇を狙ふ驕慢心の增長及過剩資本の膨脹力。

第二、英國の狡猾なる外交に兒事して遣られた事。

第三、內政的失敗を掩ふはんが爲めに國民の視聽を國外に振り向けんとしたるルーズヴェルトの政策。

第四、ユダヤ系財閥とその傀儡政治家の策謀。

第五、民主々義と全體主義の衝突及防共協定の與へし刺戟。

第六、支那の常習手段である以夷制夷の奸策に甘く乘せられたこと。

第七、少壯海軍々人の刺戟性に基く對日攻勢論。

第八、數字偏重に基く錯覺と對日過少評價。

第九、現實よりも理想に偏し自己正義觀に陶醉し易き米國人の國民性。

第十、肚の無き日本の叩頭外交が多年彼に與へた錯覺。

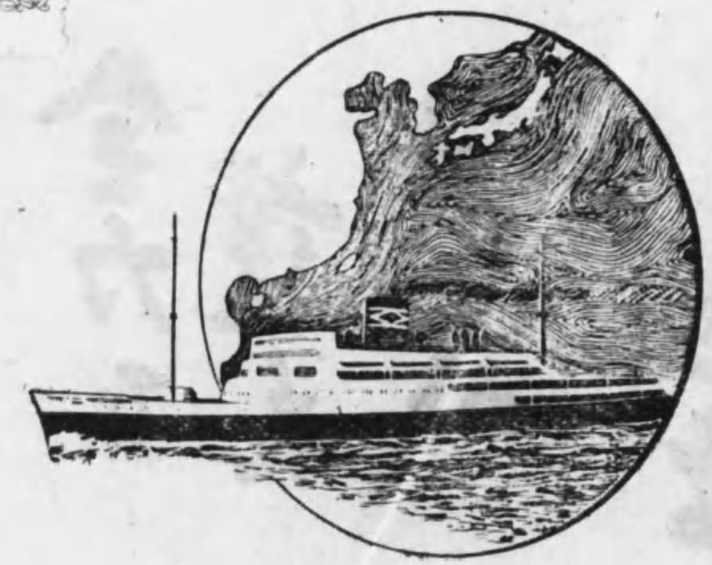
以上の諸原因を探究すれば米國民衆は今更參戰の愚を覺る機會を捕捉し得るであら

う。しかし乗り掛けた船であれば行く先まで漕ぎ付けて國威を擁護しようとも考へるであらうから、今後の戰爭は日米共に多分に銃後の國民戰と考へねばなるまい。戰爭は前線の將兵に委せて國内は僅かばかりの犧牲でこの世界大戰爭が勝ち拔かれるなどゝ夢想して居るならばそれこそ大變な錯覺であらうし、この際樂觀は大怪我の基となつて取返しの附かぬ結果を產むであらう。

願て銃後の我々も一心同體となつて努めつゝ在るとは言ふものゝ、事實火の玉となつて前線に立つ我同胞に比すれば、我々銃後の國民は未だ〳〵力の入れ工合に多大の餘力を剩すものがある、灼熱鐵を溶すガダルカナルや、汗も氷るアリユシャンに身命を賭して鬪ふ我勇士の上に、朝な夕な思を馳するならば、我々は尙如何なる辛苦缺乏にも打ち勝つ餘力を充分に剩して居ることが分る。しかも、現在鬪はれつゝある戰爭は、日一日と銃後國民の決意と奮鬪と忍耐力の決戰と成り、銃後の耐久力が物を言ふ度合が刻々增加しつゝあるのである。

如何に四十八手に巧な相撲でも、腰が摧ければそれ迄である。昔の戰爭は多く前線に於て勝敗が決せられたが、現代戰に於ては銃後の底力に待つものが多いことは、國際戰爭の歷史が證明して居る。これを現在の日米戰爭に就て言ふならば、日米銃後の國民がその經濟狀勢に直面して、何れが早く腰を摧くか、どちらが日常生活の狀態に多く不平不滿を並べ出すか、どちらが先きに氣を腐らし始むるかと云ふ一點に存ずるのである。如何なる缺乏や困窮に遭遇しても、上は大御心のほどを忍び奉り、下は前線の將兵の勞苦を思ふとき、我々は事實石に嚙り付いてもこの戰爭には勝ち拔かねばならぬのである。この決心を以て進むならば、米英我敵に非ずと斷言することが出來る。

438
4



東亜海運株式會社

本　社

東京市麹町區内幸町二丁目十三番地

（東京切符發賣所・丸の内丸ビル二階・電話丸の内（23）6251・6252）

支店・出張所

東京、横濱、名古屋、大阪、神戸、門司、長崎、臺北、基隆、高雄
大連、上海、南京、蕪湖、九江、漢口、連雲港、青島、天津、芝罘
厦門、汕頭、香港、廣東、海南島、西貢、盤谷

定價二十錢

昭和十八年六月一日印刷
昭和十八年六月十日發行

（對米必勝論）
發行部數 一〇・〇〇〇部

著者　東京市田園調布二ノ九七六　芝染太郎

發行者　東京市芝區田村町二ノ二　中野淳

印刷者　東京市麹町區内幸町二ノ廿二　黑宮愼造（東東一四四番）

出版警察許可
第189號
イ60189號

發行所　東京市芝區田村町二丁目二番地　圖書出版　戰爭文化研究所
振替東京一九四七六番
會員番號一一四一三三番

（印刷所　日本出版配給株式會社　元給配）
東京市神田區淡路町九番地

全力で
護れ
この空
この國土

エビスビール
アサヒビール
サッポロビール

終